

ミッドワイフトーク

ホーム
ページ版
Vol.12

助産師だより

令和4年3月 第23号
公益社団法人栃木県看護協会
宇都宮市駒生町 3337-1 とちぎ健康の森4F
TEL 028-625-6141
発行責任者 朝野 春美

ごあいさつ

助産師職能委員長 佐藤 君江

会員の皆様、そして栃木県の助産師の皆様、栃木県看護協会の活動にご協力いただきまして感謝申し上げます。

令和3年度は、新しい生活様式となって2年目になり、感染対策を重視した中で、新人助産師（看護師含む）対象の研修や産科従事者研修会を開催しました。栃木県内の助産師の情報交換・交流の場となり、助産師の輪が広がっているよう今後も研修会の企画などを行ってまいります。助産師一人ひとりが「助産師としてのプライド」を持ち、生き生きと働き続けられるよう今後も活動してまいります。

また、アドバンス助産師の認証審査の結果、11名が新規認証を51名が更新でき、栃木県内には現在185名のアドバンス助産師が活動しています。

助産師だより「ミッドワイフトーク」では、皆様の活躍の現状や周知したいお知らせなどを募集しております。

掲載記事募集中!

栃木県看護協会ホームページから
助産師職能委員会宛にお送りください。
<http://www.t-kango.or.jp/>

委員会活動

産科従事者研修会・交流集会

令和4年1月24日（月） 9名

「アドバンス助産師の活躍」をテーマに、開催いたしました。県内で活躍中の、管理者・アドバンス助産師、それぞれの立場からの情報を共有し産科看護の質の向上を図りました。会場は感染予防対策を行いながら対面で開催いたしました。（県の委託事業として開催）



新人助産師研修（前期） 令和3年9月24日（金） 乳房ケア、母乳育児支援 20名

乳房のしくみから母乳を利点を復習し、褥婦さんへの授乳指導について、お互いに指導しあい技術を身につけることができました。



新人助産師研修（後期） 令和4年1月14日（金） ハンドケア 15名

アロマオイルの効能を学び、実践に活かせるケアをお互いに演習し、癒されました。



コロナ禍でしたが、ソーシャルディスタンスを保ち、感染予防対策を図りながら、有意義な研修になりました。

助産師をはじめ、産科・小児科に従事しているスタッフの参加があり、交流を深めることができました。



施設紹介

～那須赤十字病院～

「コロナ禍でのマタニティクラス 自宅でマタニティクラスに参加！」

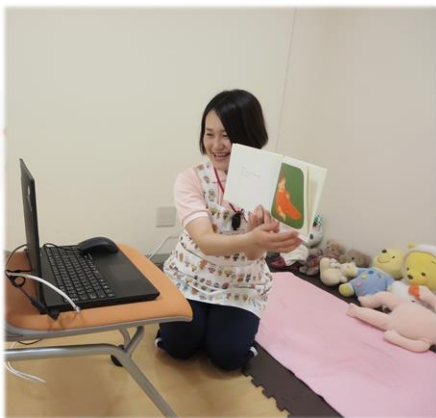
妊娠中の身体作りのヨガ、産後の赤ちゃんマッサージのクラスを開催しています。
コロナ禍の影響で、面会制限、立ち会い分娩中止を余技なくされ、マタニティクラスは個別指導に切り替わりました。
助産師外来での保健指導を充実させて関わる工夫しています。
そんな中で、かつてホールで対面式で行なっていたヨガクラスや産後赤ちゃんクラスをWebでの開催に切り替えました。

- ①マタニティクラスで行なっていた病棟案内をホームページ上に掲載
- ②Webマタニティヨガクラス 毎月2回
- ③Web産後育児クラス 毎月1回



マタニティヨガ

直接対面ではありませんが、ご自宅から参加できるメリットもあります。
人数の制限が緩和されました。
スタッフ1人で行う事ができて、マンパワーの節約にもなっています。



育児クラス絵本の読み語り

育児クラスベビーマッサージ



参加者の声

- ★上のお子様がいても自宅なので一緒に参加、都合が悪くなったら途中退室、入室もできて、いいです。
- ★久しぶりに、スタッフの方と話せて、嬉しいです。
- ★他のお母さんも同じ思いで育児しているんだとホッとします。Webでも開いてもらいたいです。

アドバンス助産師紹介

アドバンス助産師 塚田祐子 自治医科大学附属病院

自治医科大学附属病院では30名を超えるアドバンス助産師が勤務し、それぞれ母子とその家族にとっての最良の看護にリーダーシップを発揮しています。

特に院内助産所(la vie)は、アドバンス助産師が行っており、助産師の活躍の場所になっています。助産師外来から院内助産所まで継続して妊産婦を支援し、アドバンス助産師であるからこそできる判断やケアを提供しています。

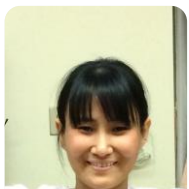
正常な妊娠生活から逸脱しないよう、また安全な出産、育児に導いていけるよう、助産診断、助産ケアを行っています。



母乳外来でも、アドバンス助産師をもった堤式乳房マッサージ法の認定者が中心となり、外来とも連携して乳腺炎予防加算取得に貢献しています。



昨年度はアドバンス助産師の初の更新年度でもありました。当院では、病棟、外来も含めて20名のアドバンス助産師が更新いたしました。助産師というライセンスだけでなく、さらなる経験と知識を踏まえたアドバンス助産師の存在は看護の質に大きく貢献します。そのようなことも含め、当院では、看護部からの更新費用の補助が出ています。このことは、アドバンス助産師を取得する助産師たちのモチベーションにもなり、さらなる自覚と責任を負うものになっていると考えます。



コロナ禍という、世の中が変化していくなかでも総合周産期母子医療センターの役割をしっかりと果たせるような看護をこれからも考えていく必要があります。命の誕生、家族を迎えるという大切な場面での面会制限や感染予防対策は、本来あるべき姿を維持することができない状況にしました。このような状況だからこそさらに創意工夫が必要であり、母子とその家族を守るための助産師としての力が必要です。

私は、アドバンス助産師の資格を持つ管理者として、助産師たちがやりがいをもって、さらに質の高い看護が提供していけるよう、今後もアドバンス助産師の育成に努力していきたいと思えます。

次回掲載は、アドバンス助産師 星宏枝さんです！

